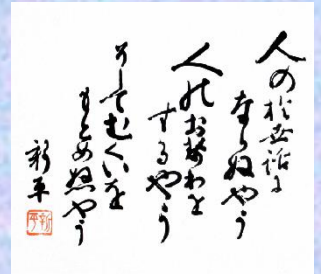




後藤新平記念館通信

奥州市立後藤新平記念館

R7 年 10 月号



【自治三訣】

藤井 茂氏 講演会

後藤新平、新渡戸稲造の繋がりを学ぶ



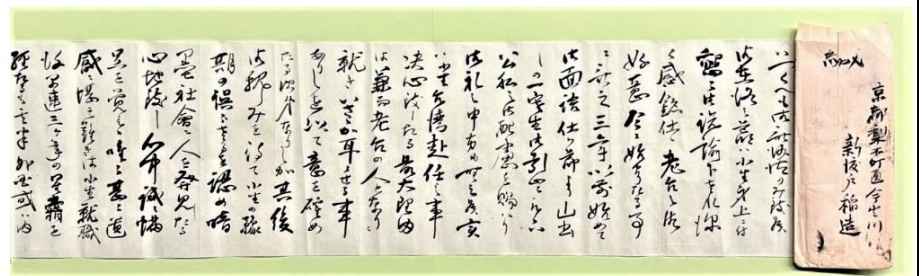
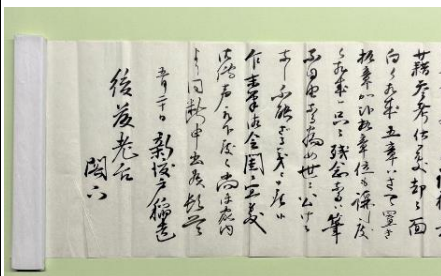
10 月 18 日（土）、後藤新平顕彰会主催講演会が、新渡戸基金理事長藤井茂氏を講師としてお迎えし、当館 2 階展示室で開催されました。「後藤新平と新渡戸稲造－後半生を導いてくれた恩人－」を演題に、国際連盟事務次長に就任した新渡戸の人生の節目に後藤との深い関係性があつたことなど二人の繋がりについて興味深いお話をいただきました。講演会には顕彰会員の皆様をはじめ多くの方に参加いただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

【学芸調査員による「常設展示より一品紹介」】

後藤新平宛新渡戸稲造書翰

現在、当館台湾コーナーにおいて、藤井茂理事長の演題「後藤新平と新渡戸稲造－後半生を導いてくれた恩人－」を裏付ける資料を公開しています。

台湾製糖事業を近代化へと導き、1904（明治 37）年に日本へ帰国した新渡戸稲造博士が、台湾総督府民政長官の後藤へ宛てた 3 m 50 cm の長さにあつた書翰です。マラリアに罹り報告が遅れたことへの謝罪文に始まり、3 ヶ年を共に過ごした感謝の言葉、台湾赴任を決心した最大の理由は後藤の人となりについて耳にしたことを確かめたかったと綴られています。実際、「後藤に会い親しみをもって接すると、暗黒社会に人を発見したような気持ちになり、心中は誠に満足を覚えた。台湾での勉強不足を遺憾に堪え難く感じている…」と書かれており、新渡戸博士の慎み深く、後藤を深く敬愛する気持ちが伝わってくるようです。（淑）



台湾台北
後藤民政長官殿

京都梨木町通今出川
新渡戸稲造

（省略）…小生身上に付
態々御説諭下され深
く感銘し、老台の御
好意今々始まりたる事
に無之三年以前始めて
御面語仕り節より山出
しの一寒生御引〇〇下
公私之御配慮を賜わり
御礼之申分も無之候実
は小生台湾赴任の事
決心致したる最大理由
は兼而老台の人となり
に就きいささか耳にせる事
ありしを以て意を確め
たる次第なりしが其後
御親みを得て小生の豫
期の誤〇〇るを認め暗
黒社会に人を発見したる
心地致し心中誠に満
足を覚えて唯々甚々遺
憾に堪え難きは小生就職
後早速三ヶ年の星霜を
経たるも：

態々…わざわざ 山出しの一寒生…田舎から出てきたばかりの貧しい書生（自身の謙称） 兼而…かねて 星霜…歲月